

造影 CT 検査説明・同意書

京都協立病院

様

1. 造影 CT 検査について

静脈から造影剤という薬を投与しながら CT 検査を行います。

通常の CT 検査に比べて臓器の腫瘍の有無や種類、血管病変の評価精度が上がります。

2. 食事制限について

頭部、胸部の検査を受けられる方の食事制限はありません。

腹部の検査を受けられる方は、午前の検査は朝食、午後の検査は昼食をとらないでお越しください。

水、お茶は飲んでいただいてかまいません（ジュースや牛乳、コーヒーは避けてください）。

3. 検査の手順

①点滴をします。ここから造影剤を入れる目的の他、緊急時の対応など検査を安全に進めるために行います。

②CT の寝台に寝ていただき、針が安全に入っていることの最終確認を行った後に造影剤を注入します。

造影剤を注入しながら何度か撮影をします。撮影に痛みはありませんが、造影剤を注入時に針を刺した箇所に痛みを感じた場合は検査に立ち会う看護師にお申し出ください。

③撮影が終われば検査は終了となります。検査時間は概ね 20 分ほどです。

4. 注意点（以下に該当する方はお申し出ください。）

①妊娠の可能性のある方。

②糖尿病治療薬のメトホルミン（商品名：メドット、メトグルコ、グリコランなど）を服用の方は前後 2 日間の休薬（計 5 日間の休薬）が必要になります（乳酸アシドーシスという副作用の恐れがあるためです）。

5. 造影剤の副作用について

造影剤注入直後に感じる熱感、尿漏れ感覚は正常ですのでご心配はいりません。

副作用の発現頻度は検査全体の 2～3% です。主な症状は悪心・嘔吐、かゆみ、発疹、くしゃみなどです。

多くは造影剤注入後 5 分以内に発現しますが、1 時間～数日後に発現する場合があります。

重篤なショックやアナフィラキシー様症状の発現頻度は 0.04～0.004% です。

特に気管支喘息の方、薬や食べ物にアレルギーがある方、過去に造影剤を使用する検査で副作用歴のある方は副作用の発現率が通常よりも高くなりますのでお申し出ください。

6. 検査後について

外来患者様は点滴薬をすべて入れた後に針を抜きます。造影剤は 1 日でほとんどが尿として排泄されますが、点滴薬を入れることで尿排泄を促します。また、検査当日は水分を多めにとるようにしてください。

入院患者様は病棟での管理となります。

.....
以上の通り、説明しました。

年 月 日 説明者 _____

以上の説明を受け、造影 CT 検査を受けることに同意します。

年 月 日 本人 _____

家族または代諾者 _____ 続柄（ ）